

と も に つ く る く ら し と 未 来



いわて生活協同組合

社会活動・環境活動報告書

2022年度の取り組み

Contents

第1章 だれもが安心して暮らせる地域づくり

第4章 社会貢献活動

第2章 暮らしをサポートする事業

第5章 組合員の活動

第3章 食の取り組み

第6章 環境活動



いわて生活協同組合

Contents — 目次 —

いわて生協の概要 3

〈 社会活動報告 〉

第1章 だれもが安心して暮らせる地域づくり

子育てファミリーの暮らしを応援 5
高齢者の暮らしサポート 7
東日本大震災被災地支援 9

第2章 暮らしをサポートする事業

店舗事業、宅配事業 10
エネルギー事業、保障事業 11
葬祭事業、南昌荘、
多様な人々がともに働き続けられる職場づくり 12

第3章 食の取り組み

地産地消、食の安全への取り組み 13
顔と暮らしのみえる産直 15

第4章 社会貢献活動

生活困窮者支援、コープフードバンク 17
ユニセフ募金、盲導犬育成募金、行政との取り組み ... 18

第5章 組合員の活動

くらし・平和を守る運動 19

〈 環境活動報告 〉

第6章 環境活動

環境理念 環境方針 20
CO₂ 排出量削減の取り組み 21
原子力発電に依存しない事業 22
廃棄物の削減、リサイクルの取り組み 23
組合員活動の取り組み 24
環境に配慮した商品の利用普及 25
環境活動のあゆみ 26

協同組合について

【定義】協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的なニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

【価値】協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。

※定義と価値は、JC 総研発行「新協同組合とは〈再訂版〉」より引用。

編集方針

この報告書は、いわて生協が基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。いわて生協「2030年ビジョン」で掲げる「ともにつくるくらしと未来」の実現に向けた取り組みを、活動の一部ではありますがお伝えします。

■対象期間

2022年度（2022年3月21日～2023年3月20日）の事業・活動を中心に報告していますが、一部2023年度の情報や将来の目標も含みます。

■発行 2023年6月

■HPアドレス

<https://www.iwate.coop>

本報告書はホームページに掲載しています。

■お問い合わせ先

いわて生活協同組合

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢 220 番地 3
TEL.019-687-1321（代）

ごあいさつ

「ともにつくる くらしと未来」をめざして

昨年は、長引くコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、そして記録的な円安と物価高がくらしに大きな影響を与えた1年でした。こうした中でいわて生協では、「2030年ビジョン」とその実現にむけた「第10次中期計画」の2年目として、きびしい家計を応援する取り組みをはじめ、くらしを支える様々な事業をすすめてまいりました。

買い物が不便な地域が増える中で、商品を自宅までお届けする宅配は毎週7万9千世帯、夕食用のお弁当をお届けする夕食宅配は毎日3千食以上をご利用いただいているほか、県内全33市町村と協定を結び、配達時の高齢者の見守り活動も行っていました。また少子化の中で子育て世代を応援しようと、赤ちゃんが生まれた世帯に贈る「はじめてばこ」は、取り組み開始から3年で1万人以上の赤ちゃんにお届けしました。

コロナ禍で生活困窮者が増える中、フードドライブや子ども食堂割引支援、フードバンクの活動が多くの方の協力で広がり、社会福祉協議会や子ども食堂のみなさんとの協同の取り組みもいっそう広がりました。

こうした取り組みの結果、組合員は27万9千人を超え、県内世帯の52%に加入いただき、出資金は106億円、供給高は452億円を超えるまでとなりました。

長期化するウクライナ危機などの影響を受けての相次ぐ値上げにより、くらしは一層きびしさを増し、先行きへの不安も広がっています。また、政府は、これからのくらしや日本の未来に大きな影響を与える平和や原発の政策を大きく転換しようとしています。

食料と環境についても、世界規模で深刻な危機がすすんでいます。世界の人口は80億人を超え、世界の食料・水不足への懸念がさらに高まっています。

国内でも、輸入飼料・肥料などの高騰で、多くの生産者が存続の危機に直面しており、生産者の高齢化・減少がさらにすすむことが心配されます。

いわて生協では、「2030年ビジョン」で『ともにつくるくらしと未来』を掲げ、その実現に取り組んでいます。くらしと平和、また世界や日本の未来にとって大きな転換期にある今こそ、組合員の協同の力で、その取り組みをさらにすすめ、SDGsが掲げる「だれ一人取り残さない」世界の実現をめざし、歩みをすすめてまいります。

みなさまからのご支援、ご協力に心から感謝申し上げますとともに、今後もいっそうのご指導、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長

飯塚 明彦



県内生協の合併・合流でいわて生協が誕生。



2023年、ベルフ向中野を盛岡市にオープン。

いわて生協の成り立ち・概要

.....
いわて生協が誕生して33年—。

組合員は27万9千人を超え、県内世帯の過半数に広がっています。

「盛岡安く牛乳を飲む会」から「生協」へ

1969年一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し、牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、お母さんたちの声掛けで急速に広がり、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買いする運動にも発展しました。一方でコープ商品や生協運動の学習も積み重ね、同年お母さんたちによる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

その後、釜石市や北上市、大船渡市にもお母さんたちによる地域生協がつくられていきました。

1990年3月「いわて生協」が誕生

組合員のくらしや地域にさらに役立つ生協をめざし、県内5つの地域生協と岩手県学校生協宮古地域の合併・合流で、1990年3月21日「いわて生協」が誕生。次の3つをめざしてスタートしました。

1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく。
2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく。
3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく。

数字で見るあゆみ

■組合員数	■出資金	■供給高
1990年度 (誕生時)	1990年度 (誕生時)	1990年度 (誕生時)
8万8,166人	13.1億円	184.1億円
2000年度	2000年度	2000年度
13万7,567人	36.4億円	372.9億円
2010年度	2010年度	2010年度
19万9,279人	69.4億円	352.8億円
2015年度	2015年度	2015年度
23万3,208人	82.5億円	386.2億円
2020年度	2020年度	2020年度
26万9,134人	99.3億円	446.3億円
2022年度	2022年度	2022年度
27万9,744人	106.5億円	452.2億円

2030年ビジョン
私たちがめざすこと
ともしつくる
くらしと未来

- 1 私たちは、生涯とおして組合員のくらしに役立つ生協をめざし、特に若い世代や子育て層のくらしにいっそう役立つ事業をすすめ、加入・利用・活動参加を広げます。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくりをめざし、組合員参画による運営とくらしの願いにそった活動をすすめます。
- 3 私たちは、地球環境・食・平和について学び、行動する人を広げ、持続可能な世界の実現をめざします。

2022年度の事業・決算概要

2022年度は「2030年ビジョン」実現のための「第10次中期計画」の2年目として取り組みをすすめました。物価高できびしさを増す家計を応援する取り組みをはじめ、店舗事業ではセルフレジの導入、宅配事業では「コープステーション」開設、葬祭事業は2ホールの新設をすすめました。組合員は27万9千人、出資金も106億円を超えました。店舗事業が苦戦しましたが、経常剰余金は9億7千万円と予算を上回って確保することができました。

事業概要

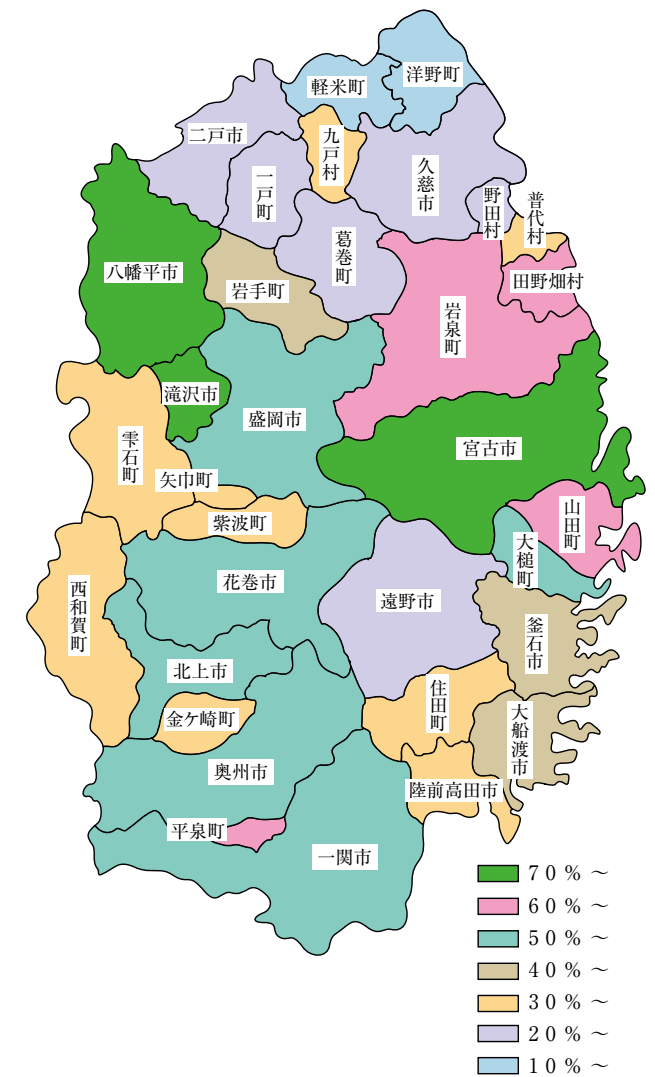
店舗事業（15店舗）、宅配事業（9宅配センター）、保障事業（1共済センター）、葬祭事業（14館）、福祉事業（2事業所）、エネルギー事業
関連会社 / (株) コープ東北保険センターいわて支店

いわて生協のプロフィール

※すべて2022年度末(2023年3月20日)の数字です。

■組合員数	■世帯加入率
27万9,744人	52.4%
■出資金	■供給高
106億4,662万円	452億2,096万円
■宅配利用人数	■常勤者(職員)数
7万9,294人	2,187人

市町村ごとの組合員世帯加入率



いわて生協は「2030年ビジョン」の実現を通してSDGs達成に貢献します

SDGsは、2015年9月に国連で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、2030年までに世界の国々が力を合わせて達成をめざす共通の目標です。SDGsは2030年までに貧困をなくし、地球環境を保護し、平和で豊かな社会の実現を呼び掛けており、生協がめざす方向性と重なり合っています。いわて生協は、「2030年ビジョン」の実現を通してSDGsの達成に貢献します。





「はじめて CLUB」をきっかけに子育て層の利用が広がっています。



「ハピママコープ」は多彩なイベントで子育てを応援しています。

第1章

だれもが安心して暮らせる地域づくり

だれもが安心して暮らせる地域をめざして、事業・活動で多彩に取り組んでいます。



子育てファミリーのくらしを応援

はじめてばこ 3年で1万人の赤ちゃんにプレゼント

岩手に生まれた赤ちゃんを祝福し、健やかな成長を願って贈る「はじめてばこ」。岩手めんこいテレビといわて生協が主催して2019年にスタートしました。「はじめてばこ」には協賛企業からのプレゼントを詰めて、ご応募いただいた全家庭に無料でお届けしています。スタートから3年の2022年度は2,308件のお申し込みをいただき、「はじめてばこ」を贈った赤ちゃんは1万人を超えました。



この取り組みは5団体の後援、30企業の協賛をいただき実施しています。

「はじめてばこ」へのご支援ありがとうございます

- | | |
|---|---|
| 【後援】
・岩手県
・岩手県産婦人科医会
・岩手県歯科医師会
・岩手県助産師会 | ・岩手県産
・上山製紙
・小山製麺
・佐々長醸造
・タカノフーズ
・浅沼養鶏場
・サンウェイ LISRJU GROUP
・太子食品工業
・遠山病院
・平安商店
・ファムカンパニー
・湯田牛乳公社
・いわちく
・スクロール
・戸田久 |
| 【協賛】
・明治
・江崎グリコ
・白石食品工業
・森永乳業
・クラブコスメチックス
・ジェクス
・スタジオアリス
・杜の住宅公園みらいえ
・麒麟ビバレッジ
・神の前キッズデンタルパーク
・東北銀行
・雪印ビーンスターク
・兼平製麺所
・盛岡いすゞモーター
・日本食研 | |

いわて生協の子育てサポート はじめてCLUB

「はじめて CLUB」は1歳6か月までのお子さんがいるご家庭をサポートする制度です。個人宅配の配達手数料1年間無料、店舗・宅配での生協商品の割引購入特典、サポートメールの配信など、生協の事業・活動で様々なサービスを受けることができます。2022年度は1,932人が新たに登録し、年度末の会員は4,058人に広がりました。

個人宅配子育てサポート制度 対象を12歳まで拡大

宅配事業では、個人宅配配達手数料を優遇するサポート値引き制度を設けています。2022年度、「母子手帳発行からお子さんが満6歳になるまで」が対象の子育てサポート値引きの登録は4,899人（前年比104%）でした。

子育て層のくらしをさらに応援しようと、2023年度より、子育てサポート値引きの対象を「お子さんが満12歳になるまで」に拡大しました。組合員からは「サポート対象拡大を聞いて宅配を再開した」と喜びの声が寄せられています。

子育てママ・パパの声から生まれた商品 コープきらきらステップ・きらきらキッズ

「コープきらきらステップ」「コープきらきらキッズ」は、お子さんと子育てをがんばるママ・パパを応援するコープ商品です。

「コープきらきらステップ」は、生後5か月～3歳ごろまでのお子さんが対象の離乳食・幼児食シリーズ。「コープきらきらキッズ」は、歯が生えそろう、大人と同じものを食べ慣れていく3歳～6歳ごろのお子さんが対象のシリーズです。

「作るのが大変な離乳食が、きらきらステップのおかげでラクになった」「きらきらキッズのお菓子はやさしい甘さで子どももお気に入り」と子育て中の組合員から支持されています。



子育てサポートをお知らせ きらきら応援隊

2022年度から新たに「きらきら応援隊」をスタート。地域の子育ての集まりに組合員が参加し、生協の子育て応援のサービスや商品を知らせる活動です。53会場で387人に生協の子育てサポートをお知らせしました。「子育てに役立つ情報をお知らせもらえて助かる」と、参加者に好評です。



0～3歳ママのためのイベント ハピママコープ

「ハピママコープ」は、0～3歳の親子を中心に子育てを応援する活動です。

2022年度は、子育てママ対象のイベント「ハピママレッスン」を県内15会場で249回開催し、970組の親子が参加しました。「自宅ではなかなかできないクラフトを楽しめた」「親子で楽しく過ごすことができた」と好評です。

ハピママコープ開催地域

- | | | |
|-----------|------|-------|
| ・盛岡市（3会場） | ・北上市 | ・大船渡市 |
| ・滝沢市 | ・奥州市 | ・二戸市 |
| ・矢巾町 | ・一関市 | ・久慈市 |
| ・紫波町 | ・宮古市 | |
| ・花巻市 | ・金石市 | |



新一年生の交通安全を願い ランドセルカバー7千枚贈呈

保障事業では、子どもたちの交通事故を減らそうと、「コーすけ入りランドセルカバー」を希望する県内の小学校に贈呈する活動を2015年から行っています。2022年度は、県内小学校の約8割に当たる219校の新入学児童に7,139枚のランドセルカバーを贈呈しました。さらに、こくみん共済コープ（全労済）様と共同で、「コーすけ入り横断旗」100本を盛岡市の小学校1校に贈呈しました。





無料買い物バスを盛岡・宮古地域で運行しています。



宅配（班・個人宅配）の利用者は7万9千人に広がっています。

高齢者のくらしをサポート

店舗事業での 買い物支援は9万人が利用

無料買い物バス

盛岡地域5店舗への無料バス、宮古市・山田町から宮古店舗への無料買い物バス、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスを運行しています。2022年度のバス利用人数は6万5千人（前年比110%）となりました。

買い物配達サービス

お店で購入した常温の商品をご自宅にお届けする「買い物配達サービス」を全店で実施しています。年間2万9千人（前年比101%）が利用しました。「お米やティッシュなどかさばる商品を届けてもらえて助かる」と利用者から好評です。

夕食宅配サービス 20市町村1日3,385食をお届け

週5回、カロリーや塩分に配慮したお弁当をお届けする「夕食宅配サービス」（2013年事業開始）は、要望にこたえておかずのボリュームを重視した「まん福コース」を新たに始めました。利用は20市町村で1日3,385食（前年比105%）に広がりました。



夕食宅配サービス提供地域（一部展開地域を含む）

- ・盛岡市
- ・滝沢市
- ・八幡平市
- ・雫石町
- ・矢巾町
- ・紫波町
- ・花巻市
- ・北上市
- ・奥州市
- ・平泉町
- ・一関市
- ・二戸市
- ・一戸町
- ・久慈市
- ・宮古市
- ・山田町
- ・釜石市
- ・大槌町
- ・大船渡市
- ・野田村

宅配事業個人宅配サポート制度で 高齢者の買い物を応援

宅配事業では、高齢の方などを対象に、配達手数料を割り引くサポート制度を設けています。2022年度、高齢者サポート値引きは1万3千人、介護者サポート値引きは3千人の方が利用しました。

個人宅配サポート制度の登録人数

制度	登録人数	個配利用者に占める割合
高齢者サポート値引き お一人が70歳以上の夫婦世帯、 全員が70歳以上の世帯	13,465人	23%
介護者サポート値引き ご本人またはご家族が介護認定を受けている世帯	3,129人	5%

高齢者見守り活動 異変対応は10年間で160件に

いわて生協は県内の全市町村と協定を締結し、宅配（班・個人宅配）、夕食宅配サービスを利用される高齢者を対象に、配達時気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡する「見守り活動」を行っています。

2022年度の異変への対応事例は17件、10年間で160件となり、ご家族から感謝の声をいただいています。



小規模多機能型居宅介護事業 のべ269人が利用

介護事業への要望の高まりを受けて、2018年度から、24時間・365日の在宅支援を行う「小規模多機能型居宅介護事業」を行っています。2022年度、小規模多機能型居宅介護「あい長橋町」は、のべ269人が利用しました。



「あい長橋町」ではお出かけや季節の行事を大切にしています。

コープ介護・福祉センター「あい」 サービス提供人数は6千人に

コープ介護・福祉センター「あい」が行う在宅介護3事業の2022年度の利用人数は、居宅介護支援1,955人（前年比95%）、訪問介護1,320人（前年比101%）、福祉用具レンタル2,639人（前年比107%）となりました。また、ベルフまつその・仙北で介護用品展示会を開催し、杖や靴を試す方もいて好評でした。



ベルフまつその・仙北での展示会には多くの人が立ち寄りました。

シニア向け「健康づくり教室」開催

コープ共済連の協賛を受けて、カリッジスポーツ講師によるシニア向けの運動教室「健康づくり教室」を開催しています。3か月6回コースで、運動習慣の定着により健康寿命を延ばすことをめざしています。

2022年度は9会場で開催し、104人が参加。「体のことを考えるいい機会になった」と喜びの声が寄せられました。



シニア向け企画を多彩に開催

シニア層の元気づくりの場「大人企画」の開催が広がりました。盛岡・滝沢・八幡平・奥州・北上・一関・宮古・釜石・大船渡・二戸市の17会場で163回開催し、1,524人（前年比107%）が参加。体操や手芸など多彩なテーマで行っています。



「大人企画」の開催がさらに広がっています。

組合員どうして助け合い、 くらしをサポート

コープくらしの助け合いの会

「困ったときはお互いさま」の気持ちから、組合員どうし助け合う有償ボランティア組織として1992年に発足。2022年度30周年を迎え高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。2022年度は15市町11支部に会員1,434人（前年比96%）、活動時間2万3,193時間（前年比103%）でした。



コープサロン、ふれあいお茶っこ会

地域でつながり交流する場として「コープサロン」「ふれあいお茶っこ会」を開催しています。

「コープサロン」は、気軽に立ち寄り一息つける場として、盛岡・滝沢・八幡平・宮古・釜石・大槌・大船渡・花巻・北上・奥州・一関市の14会場で158回開催し1,088人（前年比128%）が参加しました。

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共催するミニデイサービスです。2022年度は盛岡地域12会場で開催しました。



東日本大震災被災地支援 変化する被災地の要望に寄り添い、沿岸地域での支援活動を継続しています。

毎日の暮らしを支える買い物支援 12年間で80万人が利用

移動店舗「にこちゃん号」は、組合員の募金と全国の生協の支援で2012年から開始。2022年度は2台が宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の災害公営住宅など43か所に運行しました。宮古市、山田町から店舗へ運行する「無料お買い物バス」と合わせ、2022年度は5万2千人（前年比82%）が利用しました。12年間でのべ80万人が利用し、買い物が不便な地域の暮らしを支えています。

宅配事業では、沿岸被災地（内陸避難の方含む）対象に個人宅配配達手数料を減免する支援を継続しました。登録人数は7,263人（前年比97%）となりました。



沿岸の幼稚園・保育園・子ども園 5施設にバスケットゴールを寄贈

2021年度から、岩手ビッグブルズの「バスケットゴール贈呈プロジェクト」に協賛し、沿岸の幼稚園・保育園にバスケットゴールとボールを寄贈しています。2022年度は宮古市、大槌町、釜石市、久慈市、陸前高田市の5施設に寄贈し、ビッグブルズの選手と子どもたちがミニゲームなどで交流しました。



被災地支援活動助成金 7年間で1,896万円を助成

東日本大震災被災地で支援活動に取り組む団体を支援する助成金制度を2016年度に設立しました。2022年度は「沿岸12市町村での活動、内陸で被災者を支援する活動」を対象に、16団体に326万円を助成しました。これまでの7年間で助成総額は1,896万円にのびます。

この他、地域で自主的に活動するグループへの補助を41グループ122万円行いました。



被災地支援活動助成金 贈呈団体(活動エリア)

- 【宮古市】 鉄ヶ崎元気市の会、子どもたちに映画お届け隊
- 【山田町】 北浜老人クラブ、やまだ子ども支援団体ないる
- 【大槌町】 おおつちおばちゃんくらぶ、花道プロジェクト
- 【大船渡市】 のびのび子育てサポータースマイル
- 【陸前高田市】 陸前高田子ども図書館ちいさいおうち、特定NPO法人きらりんぎっず、(一社) 陸前高田被災地語り部くぎこ屋、つむぐ、(一社) 三陸アーカイブ減災センター、特定NPO法人まゐむたかた、長部野球スポーツ少年団
- 【釜石市・大船渡市】 NPO法人 Plus One Happiness
- 【陸前高田市、大船渡市、大槌町】 もっちいと森の仲間たち



セルフレジを14店舗に導入しました。



宅配の新たな利用形態「コープステーション」をスタートしました。

第2章

暮らしをサポートする事業

ふだんの暮らしにいっそう役立つ事業、生涯をととして組合員の暮らしに役立つ事業をめざして、取り組みをすすめました。



店舗事業

セルフレジを14店舗に導入

コロナ下で要望が多く寄せられていた「セルフレジ」を14店舗に導入しました。2022年度の利用率は43.2%と徐々に高まり、「自分のペースで会計ができる」と好評です。

店舗と宅配のポイントを統一 コープポイントをスタート

組合員の要望にこたえて、店舗と宅配のポイント制度を統一し、共通で利用できる「コープポイント」を2023年度スタートしました。ポイントが付与される事業が夕食宅配、住まいと暮らしのサービスにも広がり、組合員からは「ポイント制度がわかりやすくなった」「生協のいろんな事業の利用でポイントがつくのうれしい」と好評です。

宅配事業

毎週の利用者は7万9千人に

商品案内チラシを見て注文いただいた商品を翌週お届けする宅配（班・個人宅配）は、コロナ下で利用が増え、利用者は7万9,294人（前年比101%）、県内世帯の15.1%（前年+0.2%）に広がりました。

宅配の利用サポートとして、AIが選んだおすすめ商品を注文書に色付けする取り組み、特定商品の購入でポイントがもらえる「ポイント付商品」を新たにスタートし、好評です。

16番目のお店 ベルフ向中野オープン

2023年3月23日、盛岡市向中野にベルフ向中野をオープンしました。新店は2018年のベルフ北上以来5年ぶり、いわて生協の店舗は16店舗となりました。



宅配商品を店舗で受け取る 「コープステーション」開設

ライフスタイルが多様化する中、宅配の利用形態を広げて組合員の暮らしに貢献しようと、注文した宅配商品を店舗で受け取る「コープステーション」を、新たに開設しました。2022年度はベルフ仙北とコープ関コルザに開設。「利用曜日を選べて便利」「配達手数料が無料で助かる」と好評で、登録人数は2店舗で335人に広がりました。



店舗に共済カウンターを設置しています。



セリオでは葬祭に関するあらゆることをサポートします。

保障事業

7千件の加入で契約件数11万5千件に

コープ共済は、全国の生協組合員の「助け合い」の制度として、手ごろな掛金で充実の保障を実現した保障のコープ商品です。

2022年度、コープ共済の新規加入は7,267件となり、契約件数は11万5,454件となりました（前年比102%）。ペルブ青山に独立型共済カウンターを設置し、気軽に相談しやすい環境を広げました。

葬祭事業

14ホールで1,657件を施行

葬祭事業は、「人生最後の儀式だからこそ、自分たちがつくる生協で」「納得できる適正価格で」という組合員の願いから生まれ、1993年から事業を行っています。2022年度は、奥州市と宮古市に2ホール新設。14のセリオホール（葬祭会館）で、1,657件（前年比113%）の葬儀を施行しました。コロナ下でも「故人にふさわしいお見送り」と対応が評価されました。

南昌荘

入園者が2万人を超えました

1885年（明治18年）建造の南昌荘は、保存を望む多くの声にこたえ、いわて生協が保有し、2000年から公開を行っています。建物は盛岡市の景観重要建造物に、庭園は盛岡市の保護庭園・国の登録記念物に指定されています。

2022年度は、「紅葉ライトアップ」（11月）や「ひなまつり展」（2月）などの企画が好評で、年間の入園者数は2万684人（前年比150%）と開館の年以来の2万人超えとなりました。婚礼写真の撮影としても活用されています。

15億円の共済金をお支払い

コープ共済は、共済金のお支払いを大切に、請求漏れが発生しないように宅配・店舗を通じて加入者に声かけを行っています。2022年度の共済金のお支払いは、2万1,880件（前年比160%）、15億5,635万円（前年比163%）とコロナへの対応で過去最多に増え、「組合員のくらしを支える助け合い」の役割を果たしています。

「セリオ積立」1万4千件に

いつか訪れる“もしもの時”に備えて、計画的に積立を行う「セリオ積立」も、組合員の要望から生まれた制度です。2022年度は、新たに1,074件の申し込みをいただき、総件数は1万4,625件（前年比102%）になりました。



エネルギー事業

生協灯油は総額4千万円を還元

2022年度も原油価格の高騰が続く中、県内の灯油価格を適正化しリードする役割を果たしました。1～3月度の配達灯油に対し1L2.5円、冬季1,000L以上の利用で1L1円、総額4,388万円の還元を実現し、きびしさを増す組合員の家計に貢献しました。



配達灯油の登録人数は3万9千人にのぼります。

住まいと暮らしのサービス事業 3万7千人が利用

住まいと暮らしのサービスセンターは、地域の専門業者や施設と提携し、さまざまなサービスを組合員に提供しています。

2022年度は、店舗で「住まいの相談会」を16回開催し、快適な住まいづくりをサポートしました。提携施設で優待サービスを受けられる「組合員カード提示サービス」は、提携の解除もあり、サービスの利用者はのべ3万7,563人（前年比90%）と減少しました。

コープのでんき「COCOENE」 契約件数は7千件に

環境にやさしく、原発に依存しないくらしを広げようと、再生可能エネルギーを積極的に取り入れた電気の小売事業を行っています。コープのでんき「COCOENE」は、エネルギー価格高騰の影響で「コスパでんき」の販売を2022年7月で終了し、再生可能エネルギー比率100%（計画値）の「ソフトでんき」への切り替えをすすめました。

この影響で2022年度の保有件数は7,510件（前年△1,194件）となりました。

多様な人々がともに働き続けられる職場づくり

「くるみん認定」を取得 常勤者の子育てをサポート

子育て中の常勤者が働きやすい職場づくりをめざして取り組みをすすめています。

2022年度は祝祭日の一時保育を4会場で20日間実施し、のべ66人の子どもが利用しました。育児休業は、「パパ育児休制度」開始を機に男性常勤者の取得を推進しましたが、コロナ影響による欠員もあり、取得率は男性15%（13名中2名取得）でした。女性は対象者8名が全員取得しました。

さらに、国の「くるみん認定」を取得することができました。



障がいを持った人の 就労をサポート

いわて生協では、多様な常勤者がともに働き続けられる組織をめざし、障がいを持った人の雇用にも積極的に取り組んでいます。2014年から岩手県の「特別支援学校就労サポート制度」に登録し、支援学校生の職場実習・体験を受け入れ。また、盛岡地区「特別支援学校と企業との連携協議会」にも参加しています。

2022年度末時点で障がいを持っている人の雇用は58人、法定雇用率は3.2%。定期面談やアンケートからの改善などを行い、長く働き続けられるよう取り組んでいます。





おいしさで人気「アイコープチキンナゲット」。



生協ならではの商品のよさと利用を広げています。

第3章

食の取り組み

アイコープ商品・アイスタイル商品

地産地消をめざすオリジナルブランド商品

アイコープ・アイスタイル商品は、いわて生協が開発・供給しているオリジナルブランド商品です。できるだけ岩手県産・国産原料を使用し、主に岩手県内のメーカーと共同で開発した商品です。開発には、組合員も参加しています。

東日本大震災以降は特に、「地場産品の利用を広げることで岩手を元気にしよう」と、利用普及に積極的に取り組んでいます。

岩手の豊かな農林水産物を地元で消費する「地産地消」を広げようと、県内企業や生産者、組合員といっしょに取り組んでいます。また、安全な商品をお届けするため、全国や東北の生協と協力して取り組んでいます。



2022年度「アイコープ商品」「アイスタイル商品」の実績

- アイコープ商品・アイスタイル商品数 **140品目**
- 2022年度供給高 **10億3,087万円** (前年+ 2,037 万円、102.0%)
- 製造委託メーカー **50社**

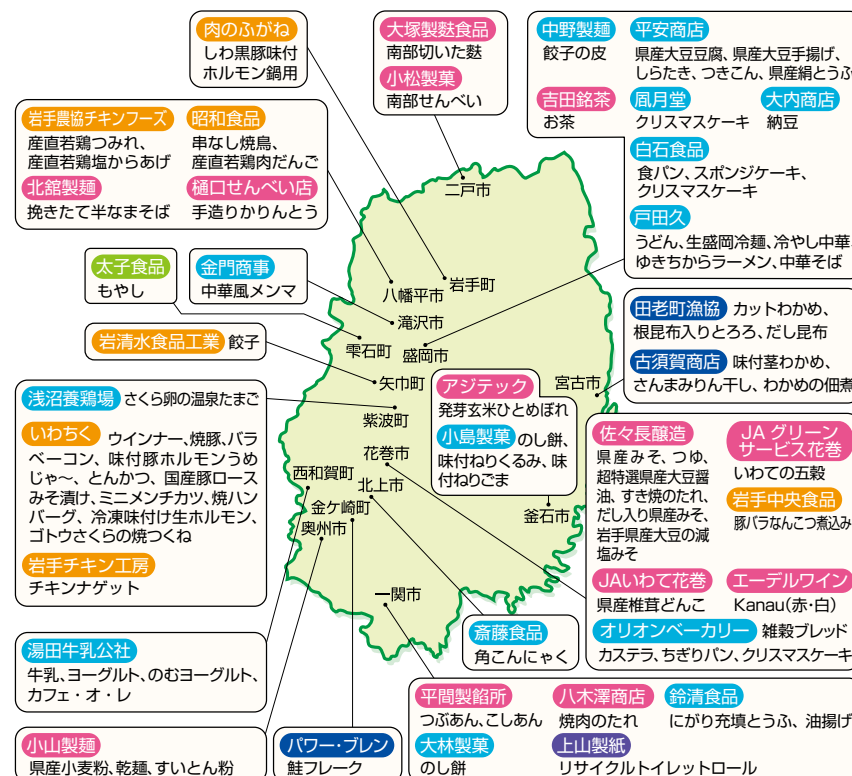
開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内で製造する高品質の商品です。開発には組合員も参加し、味や使い勝手などを確かめています。



食品添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たしながら、より求めやすい価格を重視した商品です。



2023年3月現在

アイコープ商品5品を改善

2022年度は、アイコープ商品5品を改善しました。また、原材料や資材の高騰を受けて、48品の価格改定や量目変更を行いました。

改善

アイコープそうめん・ひやむぎ・うどん

岩手県産小麦を使い、岩手県内のメーカー（小山製麺）に製造を委託している商品です。

新たに岩手県産小麦新品種「ナンプキラリ」を使用しています。そうめんとひやむぎは「ナンプキラリ」「ゆきちから」のブレンド、うどんは「ナンプキラリ」「ナンプコムギ」のブレンドです。



商品のよさと利用を広げる組合員の活動

生協ならではの商品を家族で試すことで、商品を知り、利用のきっかけにしようと、「商品モニター」に取り組みました。「はじめてCLUB」対象のモニターには160人、わいわいコープ対象のモニターには2,000人が参加。広報誌などでモニターの声を紹介しました。

こ〜ぶ委員会では商品を学習し、そのよさと利用を伝える「はなまる商品」の活動に取り組んでいます。2022年度は、アイコープ商品や産直品を中心に学習し、委員会で学んだことやレシピを「秋のコープのつどい」で組合員に伝えました。



秋のコープのつどいで「はなまる商品」の魅力を紹介しました。

地域の特産品利用を広げる取り組み

岩手の豊富な農林水産物や商品の利用を広げようと、行政や生産者団体などの協力をいただき、県内の特産品をご案内しています。

2022年度は「にしわが山の市場」をベルフ牧野林で2回開催しました。また、コロナ禍で影響を受けている地元メーカーを応援しようと、宮古商工会議所との共同企画「三陸宮古魚介づくし」を宅配で1回開催しました。



毎回好評の「にしわが山の市場」。

安全な商品をお届けするために工場点検、商品検査の取り組み

組合員のみなさんに安全な商品をお届けするために、全国の生協や東北の生協と協力して品質管理や安全チェックの取り組みをすすめています。

2022年度、いわて生協では、アイコープ商品製造委託メーカーの工場点検を57工場で行いました。品質管理室では、店舗や宅配で取り扱っている商品が独自の基準に適合しているかを確認するため、商品微生物検査(3,323件)を行いました。

また商品事故を防止するため、全国の生協で商品についての組合員からのお申し出情報を共有し、事故の予兆を見逃さない仕組みを作り管理しています。





産直生産者「今松野菜生産組合」の今松貢さん（岩手町）



産直米生産者の鈴木さんと田植え体験で交流しました。

顔とくらしの見える「産直」

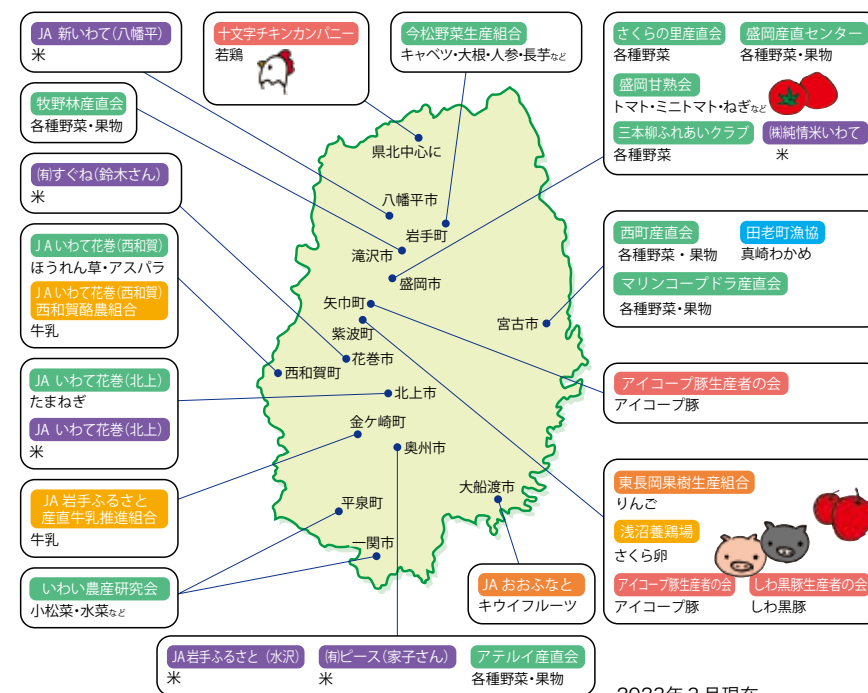
組合員と生産者が交流し、日本の農林漁業を守る運動

いわて生協の産直は、安全で新鮮、良質な農林水畜産物を求める組合員と、農林漁業の発展や健全な生産方法をめざす生産者が交流し、よりよい農水畜産物を作りながら、日本の食料と農林漁業を守っていく運動です。

2022年度「産直」の実績

- 供給高
24億4,600万円（前年-9,305万円、96.3%）
- 産直提携団体
27団体
- 農産産直コーナー設置店舗
9店舗

県内27産地と産直提携



生産者と直接話せる交流会は組合員に好評です。

いわて生協の産直三原則

- ①産地と生産者が明確であること
- ②栽培、飼育方法が明確であること
- ③組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

- ①組合員の多様な参加を強め、組合員の願いを商品と事業に反映します。
- ②岩手の農林畜水産業を守り、その発展に貢献します。
- ③組合員と生産者が「対等」「共同」「公平」の立場で、課題へ取り組みます。
- ④産地・生産者、生産・流通方法を明確にします。
- ⑤記録・点検・検査を行い、より確かな産直商品を届け続けます。
- ⑥持続可能な生産とともに、事業の環境負荷低減にも取り組みます。

産直野菜農薬基準

- ◆排除農薬／使用禁止する11農薬
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン
- ◆排除目標農薬／
排除に向けて計画的に努力する6農薬
キャプタン、ダイアジノン、ベノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

「産直収穫祭」を店舗・宅配で開催

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗と宅配で毎年開催し、生産者と組合員、職員がいっしょにおすすめ活動に取り組んでいます。

2022年度は、セールチラシや広報誌「HELLO コープ」に産地紹介やレシピを掲載し、売り場とも連動。収穫祭での利用を広げました。また、さくら卵、アイコープ豚、若鶏の「産直 BOX プレゼントキャンペーン」に取り組み、前年より応募が増えました。



「産直収穫祭」は夏と秋に開催し産直品の利用を広げています。

組合員が栽培方法などを点検する「公開安全確認会」「業務確認会」

産直品の栽培・飼育方法などの約束事が守られていることを、組合員も参加して確認する「公開安全確認会」を2003年度から毎年開催。2022年度は29産地に組合員63人が参加し、生産者の日頃の努力を確認しました。

一方で生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを組合員・生産者が確認する「業務確認会」も行い、店舗など7事業所を組合員と生産者22人が確認しました。



「公開安全確認会」ではリストに基づき点検を行います。

岩手の食と農、くらしを守る運動

いわて生協は、日本の農林漁業、食の安全・食料を守る運動に取り組んでいます。2022年度は「いわて食・農ネット」といっしょに、食料自給率向上や食品表示制度の改善について自治体・農協への要請行動を行いました。

組合員と生産者の交流活動を継続

産直学習会

組合員が産地や工場をたずねる産地・工場見学は、コロナ下で実施できませんでしたが、地域での商品学習会を16企画開催し、248人が参加。うち2企画はオンラインで開催し、工夫して生産者との交流・学習に取り組みました。



湯田牛乳公社の職員を招いて学習会を開催しました。

産直生協牛乳生産者へタオルを贈呈

産直牛乳の産地を組合員家族がたずねる「産直生協牛乳ふるさと訪問」では、産直牛乳の生産者へ感謝と応援を伝えようと、搾乳用のタオルを組合員から生産者へ贈っています。2022年度は組合員の代表が公開安全確認会で産地を訪れ、タオルを贈呈しました。



「タオルは毎日使うのでありがたい」と生産者。

産直牛乳 後継者育成資金 189万円に

酪農の発展に欠かせない後継者の育成を支援しようと、いわて生協では原乳200mlあたり20銭を「後継者育成資金」として、生協牛乳・乳製品の売り上げから生産者に還元しています。

2022年度は189万円となり、西和賀酪農組合と岩手ふるさと産直牛乳推進組合へ贈呈しました。





「フードドライブ」への参加が広がっています。



コープフードバンク協定締結は 17 団体になりました。

第 4 章

社会貢献活動

「だれもが安心して暮らせる社会・地域」をめざして、行政や諸団体のみなさんといっしょに取り組みをすすめています。



生活困窮者への支援を継続 フードドライブ・子ども食堂割引支援・ささえあい募金

フードドライブ

対象商品を購入して寄付いただく活動で、2022 年度は店舗で2回、宅配で1回実施しました。3回の取り組みで9,644 点（前年+ 2,908 点）の食品が寄せられ、社会福祉協議会や地域の子ども食堂など 27 団体へ贈呈し、支援に役立てていただきました。



子ども食堂割引支援・ささえあい募金

地域の子ども食堂を支援する取り組みとして、2020 年から実施しています。「子どもの居場所ネットワークいわて」に加盟する団体を対象に、生協での購入代金を2割引きに支援する取り組みです。2022 年度から、店舗に加えて宅配でも取り組みを始めました。割引支援は 11 団体（対象 3,982 人）が利用し、87 万円を助成しました。

子ども食堂割引支援の財源となる「ささえあい募金」は、2022 年度宅配での利用登録募金を新たにスタートしました。店舗・宅配で 245 万円が寄せられました。

たくさんの“思いやり”が支えに

滝沢市社会福祉協議会では、ひとり親世帯を対象に食料配布活動（滝沢市つながり・つながる・フードパントリープロジェクト）を行っています。この活動は市内の企業・団体、民生児童委員、ボランティアの皆さんの「子どもたちのために」という思いに支えられています。いわて生協さんには子どもたちのお菓子の支援を依頼し、フードドライブでたくさんお寄せいただきました。「安全・安心でおいしい生協のお菓子を食べてもらいたい」という私たちの思いから依頼しましたが、お菓子のパッケージもかわいらしく本当に喜ばれました。

組合員のみなさんが参加するこうした支援は、本当に心強く、頼もしく感じます。

（滝沢市社会福祉協議会 主任 白藤桂子さん）



コープフードバンク 12 団体に 11 トンを提供

東北6県の生協で運営するコープフードバンクは、お取引企業から余剰食品などを無償で提供いただき、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。

2022 年度は、新たに住田町、大槌町、久慈市の社会福祉協議会と協定を締結し、締結は 17 団体となりました。活動では 12 団体へ 44 回 11.1 トン（前年+2 トン）の食品等を提供しました。また、自宅外から県内の大学・専門学校に通う学生を支援する取り組みにも食品を提供しました。活動を支えるサポーターは個人 266 人（前年-24 人）、法人6社です。

コープフードバンク協定締結団体（締結順）

- 宮古市社会福祉協議会
- 大船渡市社会福祉協議会
- NPO 法人 ぐらしのサポーターズ
- 岩手保護院
- 花巻市社会福祉協議会
- 北上市社会福祉協議会
- 釜石市社会福祉協議会
- 一関市社会福祉協議会
- 奥州市社会福祉協議会
- 認定 NPO 法人 インクルいわて
- 二戸市社会福祉協議会
- ぬくまる食堂実行委員会
- 滝沢市社会福祉協議会
- 陸前高田市社会福祉協議会
- 住田町社会福祉協議会
- 大槌町社会福祉協議会
- 久慈市社会福祉協議会

法人会員（岩手県内）

- （株）事務機商事
- （株）丸庄クリーニング
- （株）モリレイ
- 白石食品工業（株）
- （株）岩手給食
- （株）銀河フーズ

ユニセフ募金は 過去最多の 2 千万円の募金に

世界の子どもたちの命と健康を守るユニセフ募金に取り組んでいます。

2022 年度は「ウクライナ緊急募金」（1423 万円）、「トルコ・シリア地震緊急募金」（275 万円）の2つの緊急募金に取り組みました。取り組みは新聞やテレビでも紹介され、多くの募金が寄せられました。

この2つの緊急募金と通常のユニセフ募金（460 万円）で、2022 年度のユニセフ募金は 2,157 万円となり、過去最多の募金額となりました。これまでの募金総額は 1 億 5,181 万円となりました。



ユニセフ緊急募金に多くの募金が寄せられました。

長年の盲導犬育成募金の取り組みに 日本盲導犬協会より感謝状

いわて生協では、2006 年から店舗に募金箱を設置し、盲導犬育成のための募金に協力してきました。この 16 年間で寄せられた募金は 456 万 7,744 円。2022 年度は 42 万円の募金が寄せられました。



こうした長年の募金活動に対し、日本盲導犬協会から感謝状をいただきました。

「いわて消防団応援の店」 4 万 9 千人が利用

消防団員のみなさんの活動を支え、団員が増えるよう協力していこうと、「いわて消防団応援の店」に全店舗が登録しています。組合員に加入した上でレジで「消防団員カード」を提示すれば、5%分を割引くサービスを提供しています（1 日・15 日を除く）。2022 年度はのべ 4 万 9 千人がこの制度を利用しました。



認定ステッカーを店頭に掲示しています。

障がい者のくらしや活動を応援

障がいをお持ちの方のお買い物をサポートしようと、宅配事業では個人宅配配達料が半額になる「障がい者サポート値引き」を実施（4,879 人利用）。また、視覚障がいのある組合員の買い物支援として、カタログを読み上げた CD を 43 人にお届けしています。店舗では「サービスケアアテンダント」資格取得者（66 人）が、お買い物をサポートしています。

障がい者のスポーツ活動を応援しようと、「スペシャルオリンピック日本・岩手」のオフィシャルサポーター、「岩手県障がい者スポーツ協会」の賛助会員として協力しました。

自治体・関係団体の審議会で提言

住みよい地域づくりをめざし、組合員理事を中心に岩手県や県内市町、関係団体の審議会や委員会に委員として参加し、生活者の視点で提言を行っています。

2022 年度は「岩手県水産審議会」「岩手県食の安全安心委員会」「岩手県食育推進ネットワーク会議」など 32 の委員会に参加しました。



多くの組合員が運営の場に参加しています。



毎年8月9日に開催する「平和のつどい」。

第5章

組合員の活動

「だれもが安心して暮らせる社会と、人と人がつながる地域づくり」をめざして、組合員みんなで取り組みをすすめています。



核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名3万2千筆

ロシアのウクライナ侵攻で、核兵器使用の危機がこれまでになく高まっています。唯一の戦争被爆国である日本が、今こそ核兵器の廃絶へ世界をリードすべきとの思いから、日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名活動に、県内の被爆者団体等といっしょに取り組みました。

いわて生協では3万1,684筆、県内で5万2千筆が寄せられました。



核兵器の禁止条約の批准を求めて県選出国會議員へ要請を行いました。

平和運動 平和の大切さを学ぶ

いわて生協では「くらしの基本は平和があってこそ」との思いから、平和運動に取り組んでいます。2022年度は、平和の大切さを学ぶ「ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ（オンライン）」に40人が参加。また、「平和のつどい」を高松の池にある平和祈念像前で開催し、31人が参加しました。

「福祉灯油」の実施を要請し 県内全市町村10万9千世帯で実現

ロシアのウクライナ侵攻でエネルギー価格が高騰する中、県内全市町村での「福祉灯油」の実施を求めて、岩手県生協連などといっしょに岩手県議会へ請願を行いました。

請願は採択され、福祉灯油を含む冬季暖房関連への助成3億2千万円が決定し、県内全市町村10万9千世帯で実施されました。



岩手県議会へ福祉灯油の実施を要請しました。

1万4千人の組合員参加で運営

多くの組合員の参加で生協を運営しようと取り組みました。2022年度は、若い世代の参加を増やそうと取り組み、のべ1万4,063人が参加。運営や計画づくりに多くの組合員の意見・要望をいかすことができました。

運営参加の場	参加人数(前年比)
組合員の集まり	ウェルカムコープ 6,941人(—)
	秋のコープのつどい 5,059人(68%)
計画づくり	コープ懇談会 1,457人(139%)
	コープ総代会 606人(106%)
計	14,063人(78%)